

令和7年度 新宿区 とつきよすくわくプログラム 活動報告書

高田馬場第二保育園 新宿区高田馬場1-4-17



活動テーマ「園庭遊び ～自然との関わり～」

様々な木々に囲まれ自然豊かな当園の特徴を活かし、園庭遊びの充実を自然の関わりを通して図れるようにテーマを設定しました。各クラスでサブテーマを設けて研究を進めていきました。

- 0歳児 「自分から動いたり歩いたりして身近なものの感触を味わってみる」
- 1歳児 「見つけよう！自然の不思議さ、おもしろさ～さわって・とって・くんくんして～」
- 2歳児 「自然に興味をもったり親しんだりしながら仲良くなろう」
- 3歳児 「自然に興味をもって楽しもう！～自然界にはいろいろな色があるね～」
- 4歳児 「発見を遊びに」
- 5歳児 「これ何だ！？ ためしてみよう！ しらべてみよう！」



テーマ設定理由

高田馬場第二保育園の園庭には、シンボルとなる大きな桜の木が一本、様々な実をつける木々や花壇、段々とした築山もあります。

令和6年度にその園庭を活かした保育ができるように「豊かな心を育む園庭づくり」をテーマに、職場内研修として研究をしていました。今までの研究を引き継いで、園庭での遊びや自然との関わりをさらに深めていきたいという思いで、「園庭遊び～自然との関わり」というテーマを設定しました。



- ・1年を通して、各クラス、サブテーマに合わせて活動に取り組みました。
- ①各クラス、テーマを基にどんなことができるかを考え、クラスで実践し、活動を事例に起こす
- ②事例について、他クラスの職員との意見交換やグループ討議をする
- ③話し合いや意見を参考に次の活動を考え、取り組む
- ※①～③を繰り返し、自然への興味や遊びを深められるようにしていきました。



- ・園庭づくりの話し合い、講師の研修、観察会（保育を見合う）、自然に関する本の貸し出しなども随時行いました。

活動のために準備をした素材や道具環境の設定

- ・自然に関する絵本や図鑑を可動式の棚に設置し、園庭近くに置き、見つけたものをすぐに調べられるようにしました。
- ・幼児クラス用の可動式棚と透明カップをポーチに設定し、見つけたものを集めたり、取っておいたりできるようにしました。
- ・プランターと花と種を購入し、園庭会議で話し合った場所に植物を増やし、子どもたちが成長を観察したり遊びに使ったりできるようにしました。
- ・プラスチック段ボールでパタパタプールを作成し、落ち葉を集める場所や、遊びの空間を区切る工夫をしました。
- ・新たにワゴンを設定し、虫かご、すり鉢、紙、ペンなどを置き、園庭で見つけたものを自由に観察、遊び、制作へと発展させることができるようにしました。
- ・ポーチにおいたワゴンの前にテーブルを置き、調べたり、制作や観察をしたりしやすいようにしてみました。
- ・ポーチからつながるようにマットを設置し、乳児クラスの子も達が靴を履かずにプランターや花壇の植物を観察できるようにしてみました。

【0歳児】

- ・ポーチや室内で水、葉っぱ、砂、土、雪など様々な自然物に触れる遊び
- ・アリやミズなど生き物を一緒に見る経験 ・風船、新聞紙など身近なものに触れる経験

【1歳児】

- ・プランターで植物を育ててみる活動（朝顔、万願寺唐辛子、チューリップ） ・探索（散歩バック）
- ・落ち葉遊び（パタパタプール、シャラシャラトンネル、砂遊び） ・室内で葉っぱに触れる遊び（制作、飾る、見る、触れる）
- ・五感で感じる遊び（感触、におい、音、形や大きさや色などの視覚など）

【2歳児】

- ・子どもが自然の発見・興味をもって観察する・触れてみる（ダンゴムシ、カブトムシ、草花、木の実、落ち葉、砂、など）
- ・葉っぱでの遊びを広げる活動（ままごと、葉っぱでお面作りなど） ・果実との触れ合い（かりん、きんかん）

【3歳児】

- ・花（朝顔やおしろい花など）での色水遊び ・かりんの実の観察 ・園庭の色探し

【4歳児】

- ・自然探し・自然集め・自然を使って遊ぶ（見つけたもの、作ったものを取っておける棚、個人用の透明な容器等を用意）
- ・氷作り（絵本、氷を試せる容器、場の用意など） →どうやったらできるのか繰り返し試す、調べる

【5歳児】

- ・「みんなで考え、話し合おう」ぞう組会議を実施（捕まえた生き物をどうするか、咲いている花を摘んでもいいのか？）
- ・「いいものさがし」園庭で自分だけの宝物探し（見つけた宝物を見せ合い、発表をする）
- ・「ためしてみよう！」冬は氷作り（氷ができそうな場所はどこか、どうしたらこおりができるか、考え試す）
- ・「自然と遊ぼう」自然物（花、葉っぱ、木の実など）を使った遊び





【0歳児】

- ・「なんだろう?」「びっくりした」「においがする」「ざらざらしている」「おもしろい」など、自然に触れた感覚や思いを保育者が言葉に換えながら寄り添い、共感しながら楽しさを感じたり、興味をもったりできるようにしてきました。

【1歳児】

- ・葉っぱを一緒に探しながら「赤い葉っぱがあるね」「つるつるしているね」と色や形、感触、大きさなどに気付けるようにすることで自然と子どもたちも興味をもち、「あったよ」と見つけたり遊びに使ったり、子どもたちから「(踏んだ時に)音がする」と発見を知らせたりするようになっていきました。
- ・パタパタプールやシャラシャラトンネル、砂遊びなど、道具や素材と組み合わせた遊びでは、興味が薄かった子も興味をもつようになり、保育者も一緒に遊びながらごっこ遊びや体を使ってダイナミックに落ち葉遊びを楽しむ姿がありました。

【2歳児】

- ・「せんせい、みて、このはっぱここにあるんだよ」「(金柑を見て) みかんがある」と見つけたものを保育者に知らせる姿があり、「アオギリの葉だよ」「金柑っていうんだよ」と名前を知らせたり、一緒に触れたり匂いを嗅いでみたりして楽しんでいきました。大きい落ち葉を何本ももって「なにいろのふうせんがいいですか」と風船屋さんになったり、「がーがー」「ぎーぎー」とバスマットで落ち葉を集めてごみ収集車に見立ててごっこ遊びをしたりして楽しむ姿がありました。

【3歳児】

- ・色水遊びの中で「いろがかわってきたよ!」と色の変化や違いに気づく姿やかりんの実を見つけて「なかはどうなっているのだろう?」と変化や実の様子に興味をもって試す姿が見られ、気づきに共有したり一緒に実の中身を観察してみたりしてきました。花や果実に触れ合う中で、色の気づきや興味が増していたので、園庭で様々な色を探す活動をしてみると、「オレンジいろの葉っぱがあった」と様々なものに色があることに気付いて見つけてきたり、同じ色でも個々で感じ方や見え方が違ったりしていました。

【4歳児】

・園庭に出ると「おおきなはっぱがあった」「いくつあるかな」と見つけたものを大事にしたり、友達に知らせ、発見を喜び合ったり一緒に探したりする姿が多く、自分の入れ物や棚を用意するようにしました。取っておけるようにしたことで見つけたものが変化していることに気付く姿も出てきて、自然に対する興味が増していきました。クラスでも朝の活動を使って友達の発見や遊びを知らせる機会を作り、興味や楽しさが広がっていくよう援助することで、友達の遊びをきっかけに興味をもったり真似してみたりする姿がありました。

【5歳児】

・春から園庭に出ては見つけたものを集めたり、ごっこ遊びやトッピングに使ったりして自然に触れながら遊ぶことを楽しんできました。いろいろと素敵なものを見つけては様々な遊びに取り入れていたので、秋にはいい物探しの活動をし、一人一人が好きなものを見つけて持ち帰り、『どんなものを見つけた』『どんなところがいいのか』を紹介し合って、模造紙に飾っていきました。友達の見つけたものに興味をもったり、見つけたものを大事にしたりする中で、新たな発見や興味も生まれていました。

・保育者が『冬将軍』が来ることを伝えたことで、氷作りへの興味・関心が高まりました。また、氷ができるには気温が関係することに気付いたので、気温計の存在を知らせ、気温を調べられるようにしました。



- ・テーマをもつことで、保育者も園庭の自然いつも以上に目を向けて子どもたちと楽しむことができました。
- ・“子ども＝なんでも触る”ではなく、個々に触りたいもの、好みの感触が異なること、そして成長と共に感触の好みの変化があることを改めて学びました。また、継続した経験や関わり大切さを改めて感じました。
- ・保育者の楽しむ姿や興味をもつことは子どもたちに大きな影響力を与えること、また、興味の広がりや友達の影響力が大きいということを学びました。
- ・子どもたちは、自分の発見や思いを保育者や友達と共有することで、さらに自然への興味が広がり、自分から自然物に働きかけるようになることが分かりました。
- ・自然界にはいろいろな色があり、同じ色でも子どもの感性によって見える色が微妙に変わり、子どもたちは感性がとても豊かであることに気付かされました。
- ・子どもたちが自由に、主体的にためしてみよう！「しらべてみよう！」という取り組みができるように環境を整え、工夫することが必要と学びました。
- ・自然を通して仲間との関係が深まり、異年齢児との関わりも自然に広がっていたので、自然は人とのつながりを広げる役割を果たしていることも学びました。



今年度、すくわくプログラムに取り組んだことで、保育者がわくわくしながら活動の準備や取り組みをすれば子どもと一緒にわくわくし、子どもがわくわくすれば保育者もさらにわくわくできるように工夫する…と、互いに刺激し合って楽しむことができ、相乗効果で自然と関わることであったことが1番の成果だったのではないかと感じています。

今後も引き続き、もっとわくわくしながら自然に関わり、子どもの心と体がすくすくと育つよう取り組みを続けていきたいと思えます。

